

入場無料
一般来場歓迎

早稲田文化芸術週間は、早稲田大学の文化活動「早稲田文化」を発信する目的で、魅力的なイベントが無料で開催されます。実りの秋に「早稲田文化」を堪能してみたいかがでしょうか。
各企画の詳細については、文化推進部Webサイト (<http://www.wasedabunka.jp/>) をご覧ください。

早稲田文化

芸術週間

2014

「早稲田文化」を堪能しよう

10月13日(月)～10月28日(火)

アクセス案内 ●電車 JR山手線、西武新宿線「高田馬場駅」徒歩20分、東京メトロ東西線「早稲田駅」徒歩5分、副都心線「西早稲田駅」徒歩17分
●都バス(学バス)「高田馬場駅」-「早大正門」 ●都電荒川線「早稲田」徒歩5分

演劇博物館企画展示室 I・II

10/1 [WED] 企画展 「寄らば斬るぞ!」 10/4 [WED] - 新国劇と剣劇の世界 -

10:00 } 17:00
主催 演劇博物館
[TEL] 03-5286-1829
[E-mail] <http://web.waseda.jp/enpaku/>
火・金曜日の入館は19:00まで

1917年4月、坪内逍遙門下の澤田正二郎が同志とともに劇団「新国劇」の旗揚げをした。澤田は歴史劇や宗教劇、翻訳劇や社会劇、歌舞伎劇など多彩な演目を手がけ、とりわけ『月形半平太』『国定忠治』などの剣劇によって、同時代の演劇・映画に決定的な影響を与えた。新国劇が20世紀の演劇史に残した足跡を振り返るとともに、演劇と映画を中心に、大衆文化のなかにひそむ剣劇＝チャンバラの魅力に迫る。

関連企画

大隈大講堂

10/11 [SAT] エジプト・フォーラム23

15:00 } 18:00
事前申込有 ▶ waseda.egypt@gmail.com
主催 早稲田大学エジプト学研究所・早稲田大学エジプト学会
お問合せ先 高等研究所
[TEL] 03-5286-2957

早稲田大学エジプト学研究所の調査隊は、2013年12月にエジプト、ルクソール西岸にて未確認の貴族の墓を発見した。墓は、今からおよそ3200年前の「ムウト神殿のビール醸造長」の称号を持つコンスウエムヘブという人物のもので、内部には極彩色に塗られた壁画が描かれていた。この発見は世界的に報道され、注目を浴びている。今回のエジプト・フォーラムはこの世界的な新発見の報告と早稲田大学の調査隊がこれまでに発見した古代エジプトの様々な墓の研究成果を駆使して、「古代エジプトの来世観」というテーマで開催する。



【プログラム】
「古代エジプトの来世観－新発見！ルクソールの貴族の墓」

出演：近藤二郎(文学学術院教授)、吉村作治(早稲田大学名誉教授)、河合望(高等研究准教授)、馬場匡浩(文学学術院助教)他

小野講堂

11/12 [WED] 多和田葉子&高瀬アキ 朗読パフォーマンスとワークショップ

16:30 } 18:30
主催 文化推進部、文芸・ジャーナリズム論系
お問合せ先 松永美穂研究室
[TEL] 03-5286-3637

昨今、日本でも芸術の世界に、さまざまな形で「規制」がかかるようになってきている。体制批判と受け取れる作品が美術展から撤去されたり、反原発への弾圧は珍しいないけれど、先人たちはそのような「規制」とどのように向き合ってきたのだろうか。ベルリン在住の作家多和田葉子氏とピアニスト高瀬アキ氏が、権力と芸術の関係について、切実な問いを投げかける。

會津八一記念博物館企画展示室

9/26 [FRI] 早稲田のなかの 11/3 [MON] 韓国美術

10:00 } 17:00
主催 會津八一記念博物館
[TEL] 03-5286-3835
[E-mail] aizu@list.waseda.jp
入館は16:30まで。ただし、開催中の金曜日のみ10:00～18:00(入館は17:30まで)

會津八一記念博物館所蔵の韓国関連の美術品は會津八一コレクションの考古資料をはじめ、陶磁器、金銅仏、拓本資料、キャンパス内の石造資料など、その内容は多種多様であり、所蔵品数も約1000点に及ぶ膨大な量である。またこれらの資料は古代の考古資料から近代の石造資料まで制作年代も幅広く広がっている。本企画展では、陶磁資料、仏教美術資料、拓本資料などの韓国美術の精品約40点を紹介する。



會津八一記念博物館富岡重憲コレクション展示室

9/29 [MON] 市島春城と 11/15 [SAT] 画人たちののかかわり - 印章コレクションから -

10:00 } 17:00
主催 會津八一記念博物館
[TEL] 03-5286-3835
[E-mail] aizu@list.waseda.jp
入館については上記参照。

当大学の初代図書館長であった市島春城(1860～1944)は、その生涯に千顆近くの印章を集めたという。うち約七百顆が当館の所蔵となっている。今回は江戸時代から明治初期に活躍した画家、高芙蓉、池大雅、高嵩谷、春木南湖、山本梅逸、高久露崖、池田孤邨、浅野梅堂、河鍋晩斎らの刻印・用印を展示する。また、2012年に新発田市の市島邸で見つかった川村清雄の「ヴェニス風景」、2013年度当館に寄託された川村の小品2点も合わせて公開する。



大隈記念タワー 125記念室

10/1 [WED] 秋季企画展 11/8 [SAT] 十五年戦争と早稲田

10:00 } 18:00
主催 大学史資料センター
[TEL] 042-451-1343
[E-mail] archives@list.waseda.jp

十五年戦争期(日中戦争、アジア太平洋戦争)から、1945年8月の敗戦を経た占領期までの早稲田大学の歴史を展示する。特に、戦時下の学生生活や勤労動員・学徒動員、さらには植民地出身学生と戦争などのテーマに焦点をあて、戦時下における学生の諸相、戦争と大学の関係をあらためて問う。

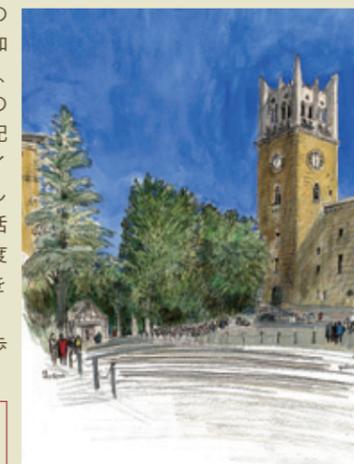
小野講堂

10/17 [FRI] 藪野 健の絵で観る早稲田

18:00 } 19:30
主催 文化企画課
[TEL] 03-5272-4783
[E-mail] bunkashukan@list.waseda.jp
[URL] <http://www.wasedabunka.jp/>

早稲田大学は1882年の創立以来、場所が移っていない。東京専門学校当時の「旧大隈邸馬丁小屋」から、明治末の大正天皇が皇太子時代の「お手植えの月桂樹」、大正末の「會津八一記念博物館」、昭和初めの「大隈講堂」、「1号館」、「演劇博物館」、旧理工学部の「7号館」から現在にいたる記憶の場を形成している。メインキャンパスは大通りに面していないが、地形、起伏を活かしながら、軸線を約30度振っていわば「学問の結界」をつくっている。早稲田の今昔を絵を通して歩きたい。

講演：藪野 健
(早稲田大学名誉教授)



大隈大講堂

10/13 [MON] 日本舞踊とバレエから魅せる ～和と洋の操り人形～西洋と東洋の舞踊の共演

18:30 } 20:00
主催 日本舞踊 花柳流 六代目花柳芳次郎
お問合せ先 文化企画課
[TEL] 03-5272-4783
[E-mail] bunkashukan@list.waseda.jp
[URL] <http://www.wasedabunka.jp/>

企画、演出、出演は早稲田大学在学生の六代目花柳芳次郎氏。芳次郎氏の祖父で早稲田大学出身、花柳流四世宗家元花柳壽輔氏をゲストに招き日本舞踊の操り三番叟という演目をメインにバレエのコッペリアとコラボレーションし、操り人形という共通点から和と洋の舞踊を同じ空間で上演する。公演の締めには獅子が毛を振るシーンが有名な連獅子の後ジテを上演し幕を締める。東京大学古井戸教授、文学学術院児玉教授と花柳壽輔氏のトークショーも交え、伝統芸能の可能性を大隈大講堂から発信する。



出演：花柳 寿輔氏、花柳 芳次郎氏 講演：児玉竜一氏、古井戸秀夫氏

10/18 [SAT] [シンポジウム]18～19世紀の中央・東アジアにおける民族的アイデンティティと国家への忠誠

14:00 }
18:00 }
主催 高等研究所
共催 「軍隊と社会の歴史」研究会
[TEL] 03-5286-2460
[E-mail] wias-info@list.waseda.jp

近代国民国家・帝国の形成過程において、諸民族集団は民族的アイデンティティを持ちつつも、その地理的・政治的・経済的・社会的要因によって、より大きな国家への忠誠を求められる場合があった。本シンポジウムでは、清朝帝国外部にあった中央アジアのカザフ遊牧集団と、内部に組み込まれた民族集団をとりあげ、両者の自己認識と清朝への忠誠の変遷をたどることにより、民族的アイデンティティと国家への忠誠の構造的連関性を考察する。

司会:谷口眞子(文学学術院准教授)
講演:野田仁(高等研究所准教授)、柳澤明(文学学術院教授)

10/21 [TUE] 早稲田文化芸術週間2014 創立記念日演奏会

18:30 }
20:00 }
主催 文化企画課
[TEL] 03-5272-4783
[E-mail] bunkashukan@list.waseda.jp
[URL] <http://www.wasedabunka.jp/>

早稲田大学交響楽団(通称「ワセオケ」)は、早稲田の学生のみで構成された唯一のオーケストラである。創立以来、サントリーホールなど国内最高級のホールでの定期演奏会、ベルリンやウィーンなど世界中を巡るツアー、ヘルベルト・フォン・カラヤンをはじめとした世界最高の音楽家たちとの共演など、長年精力的な活動を行っている。本公演は、早稲田大学創立記念日を祝して、日頃の「ワセオケ」の結集を演奏するものである。



10/17 [FRI] 早稲田フォトコンテスト

応募期間 9/1 [MON] ~ 24 [WED]

10/22 [WED]

8:00 }
22:00 }
主催 学生生活課
[TEL] 03-3202-0706
[E-mail] student@list.waseda.jp
[URL] <http://www.waseda.jp/student/>

早稲田大学の「創立記念日」である10月21日を、学生たちに大学の歴史や伝統、さらには早稲田で学ぶことの意義を改めて認識させる日としたい。そのため、多くの学生が立ち寄り、学生会館2階のアトリウムに早稲田大学の学生が応募した、「早稲田の杜の風景」、「私の早稲田日記」というテーマの写真、及び大学史資料センター等が保管している歴史的写真を並べる。是非見に来て欲しい。

10/21 [TUE] 早稲田文化特論 日本が誇る居酒屋空間 —居酒屋で飲む酒はなぜ旨いのか—

16:30 }
18:00 }
主催 文化企画課
[TEL] 03-5272-4783
[E-mail] bunkashukan@list.waseda.jp
[URL] <http://www.wasedabunka.jp/>

日本の居酒屋というのは〈文化空間〉であり、日常生活を豊かにしてくれる。そこは酒とつまみを提供するだけの場所ではない。単に一日のストレスを洗い流すための飲食店でもない。では、居酒屋は酒とつまみ以外に何を提供するのだろうか。本企画は国際教養学部で講義を持つマイク・モラスキー教授が個人経営の小ぢんまりとした赤提灯に焦点を当て、〈文化空間〉としての「居酒屋」を多角的に分析し、この問いに答えるものである。

講演:マイク・モラスキー ◆1956年米国セントルイス市生まれ。1976年に初来日し、述べ20年日本に滞在。シカゴ大学大学院アジア言語文明研究科博士課程修了。ミネソタ大学、一橋大学教授を歴任し、2013年より国際学術院教授として日本の戦後文化や東京論、喫茶店や居酒屋という都市空間を通じて現代社会を捉えなおす講義を行う一方で、ジャズ・ピアニストという顔も持つ。

10/22 [WED] 早稲田文化特論 早稲田が生んだ?世界のムラカミ?? —村上春樹とノーベル賞の近くて遠い距離—

18:30 }
20:00 }
主催 文化企画課
[TEL] 03-5272-4783
[E-mail] bunkashukan@list.waseda.jp
[URL] <http://www.wasedabunka.jp/>

早稲田大学を卒業し、千駄ヶ谷のジャズ喫茶のマスターだった青年が、小説家となり早35年。日本文学の代表として、ここ数年は秋が来るたびノーベル文学賞の期待に日本がざわつくようになってきた。本企画ではその秋に「村上春樹の文学はどこがそんなにすごいのか(すごくないのか)」「ノーベル文学賞がなぜ与えられたか/なかったか」について文学学術院市川真人准教授に熱く語っていただく90分である。

講演:市川真人 ◆1971年東京都生まれ。1995年早稲田大学第一文学部文芸専修卒業。現在は准教授として早稲田大学文学部・文化構想学部で教鞭を振るう傍ら、文芸雑誌「早稲田文学」の製作総指揮やTBS系「王様のブランチ」でのブックコメンテーターなども務める。土曜5限「編集論」などにおける自由な雰囲気や軽快なトークなどから、学生からの人気が高い。趣味は「博打」

10/23 [THU] 早稲田文化特論 最も身近な経済学実験 —日常生活に潜む数字の罠—

18:30 }
20:00 }
主催 文化企画課
[TEL] 03-5272-4783
[E-mail] bunkashukan@list.waseda.jp
[URL] <http://www.wasedabunka.jp/>

政治経済学部で毎年抽選で通った学生しか受講できない人気講義「実験経済学A」を担当している講師竹内幹氏を招き、人間行動に関する経済学実験を行う。来場者に実際に行動経済学に関する実験を体験していただき、経済学的な考え方を身に付けられるだけでなく、私たちが日常生活で陥りがちな誤りを認識することによって実生活にも役立つ講演をする。他人の心理を読むことの意味を体験したり、「うまい棒ゲーム」で限界効用逓減の意味を知ったり、経済学を体感して頂きたい。

講演:竹内 幹 ◆1974年東京都生まれ。1998年一橋大学経済学部卒業。2007年ミシガン大学にて経済学Ph.D.取得。カリフォルニア工科大学研究員を経て現在、一橋大学大学院経済学研究科准教授。専門は実験経済学、行動経済学。早稲田大学政治経済学部で「実験経済学A」を担当し、学生が積極的に参加する面白い授業として有名。毎年、抽選漏れが出るほどの人気。学生目線に立ち、熱く指導する教育者であり、2児の父親としての顔も持つ。

10/21 [TUE] 早稲田キャンパス・キャンパスガイド 手作りの早稲田名所案内

9:00 }
22:00 }
主催 広報課
[TEL] 03-3202-5454
[E-mail] koho@list.waseda.jp

創立記念日に関係する人物や建物を中心とした早稲田キャンパスの見所を、キャンパスツアーガイド手作りのポップで案内する。日英表記とし、授業の行き帰りでも気軽に掲示を見ることで、大学の沿革やエピソードを知ることが出来る。



10/21 [TUE] 映画 「夢は牛のお医者さん」 上映会

13:00 }
15:00 }
主催 平山郁夫記念ボランティアセンター (WAVOC)
共催 まつだい早稲田じょんのびクラブ
[E-mail] jonnobiclub@gmail.com

自然豊かな里山文化が広がる新潟県十日町市松代地区は、全国有数の豪雪地帯。この急激に過疎高齢化が進む地域を舞台に、主人公の少女が小さい頃からの夢を叶えて、地元の畜産農家を支援する獣医師になっていったドキュメンタリー映画を上映する。上映後には、幾多の苦難を乗り越え成長していく主人公の姿を、長きにわたって見つめてきた時田美昭監督からお話いただき、大学生は夢の実現に向けて何をなすべきかについて考える。

- 【プログラム】
1. 映画「夢は牛のお医者さん」上映会
 2. 時田美昭監督による舞台挨拶と質疑応答

時田美昭 ◆1960年 新潟県加茂市生まれ。横浜放送映画専門学校(現在の日本映画大学)卒業後、1981年に「テレビ新潟」入社。主に報道部、制作部に在籍し、「ズームイン!!朝!」などを担当。

10/25 [SAT] 奈良・日吉館をめぐる文化人 —會津八一を中心に—

13:00 }
17:00 }
主催 會津八一記念博物館
[TEL] 03-5286-3835
[E-mail] aizu@list.waseda.jp

會津八一をはじめ、多くの文化人にゆかりのある日吉館は、「奈良の芸術院」とも称されている。本シンポジウムでは、奈良と日吉館をめぐる大正・昭和初期の文化人の足跡について、「奈良・日吉館をめぐる文化人—會津八一を中心に—」と題し、学内外3名の研究者の方から講演・研究報告をいただく。日吉館という場を通じて八一と同時代を生きた文化人と奈良との関係を深く考察したい。

10/25 [SAT] Bauhaus-EUR Workshop報告会 『ドイツとイタリアにみるモダニズムとファシズムのアンビバレンス』

13:00 }
17:30 }
主催 商学学術院WBS研究センターアントレプレヌール研究会
お問合せ先 大久保貴裕
[E-mail] tacokbbkocat@gmail.com

画家・内海氏は毎夏世界各地でワークショップを行い、旅を通じて歴史と向き合うことを若者達に問い続けてきた。本年の旅ではドイツのパウハウス、ナチの強制収容所跡、イタリアのファシズム建築都市EUR、ウィーンの世紀末建築、ルネサンスや古代ローマの史跡を巡り、芸術と政治のモダニズムの系譜を辿る。報告会では独伊ファシズムと日本の極右化、旅を通じた歴史体験を主題に内海氏の講義や東出教授との対談を行い旅の成果を報告する。



東出浩教 ◆商学学術院教授、早稲田大学ビジネススクール教授。主な研究テーマはベンチャーキャピタル投資における投資活動後のマネジメント、ベンチャー創出における創造力とコンフリクトのマネジメント、ベンチャーのマイクロ戦略。
内海信彦 ◆画家、ペルー国立美術学校名誉教授、ハーヴァード・イェール大学客員芸術家。1985年以來宇宙、生命、人間社会をテーマとするInnerscape Seriesを制作、発表を続けると共に世界各地でワークショップを開く。

10/28 [TUE] 身体表現と舞台芸術

16:30 }
17:30 }
主催 学生生活課
[TEL] 03-3202-0706
[E-mail] student@list.waseda.jp
[URL] <http://www.waseda.jp/student/>

「身体表現と舞台芸術」というテーマで、舞台芸術における身体表現の意味と役割について、作家・演出家である鴻上尚史氏と文学学術院の坂内太准教授との対談を実施する。